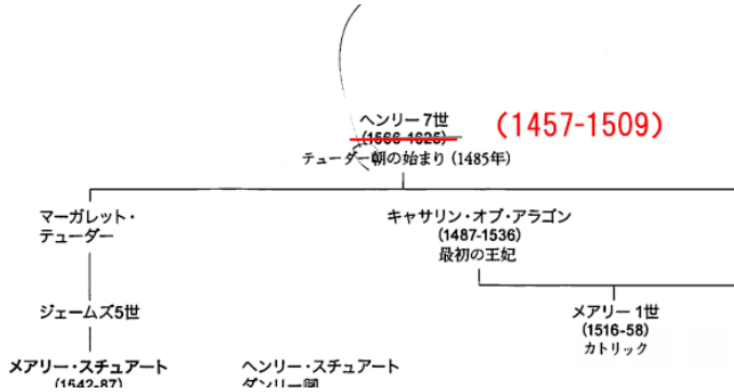


# ナイチンゲール「空気感染」対策の母 正誤表(修正箇所)

①

31ページ 図1-2 テューダー朝系図の一番上のヘンリー7世の生没年



②

64ページ 読点(、)がダブってます

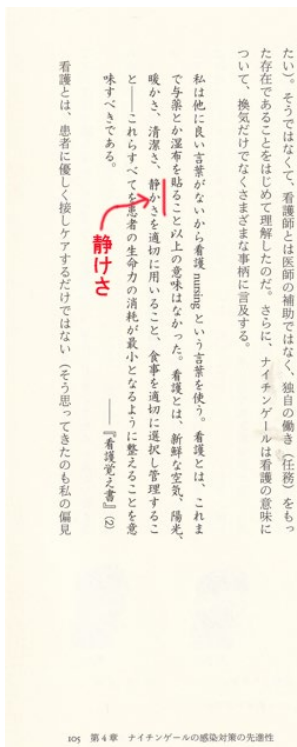
れ切っている。しかし彼女は声を上げて、荒野の中で泣きわめくように訴えた、英国陸軍の保健行政改革に取り掛かる準備があると。しかし、彼女は自分の不運を腹立たしく思っていた。自分自身を思っ

た。彼女が怒りが込み上げてきた。

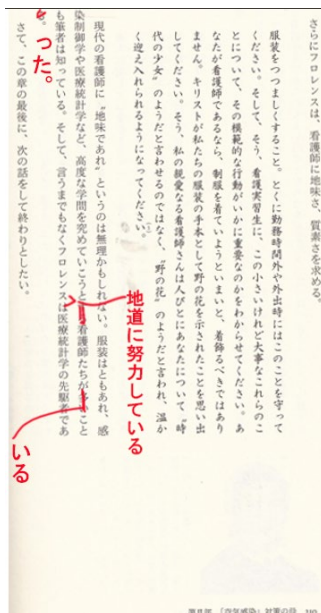
読点2つ ↓

嵐、病気、宗教 62

③ 105 ページ 静かさ➡静けさ

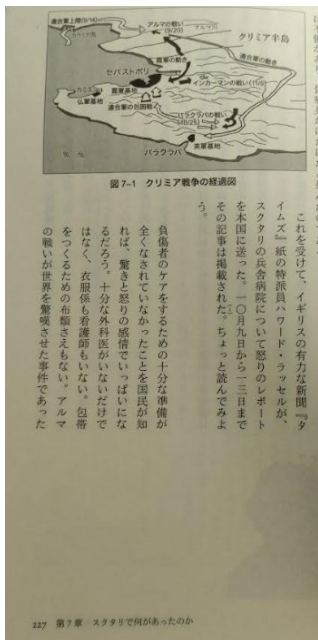


④ 210 ページ 高度な学問を究めていこうとする看護師が多い➡高度な学問を究めていこうと地道に努力している看護師たちがいる 先駆者である➡先駆者であった。

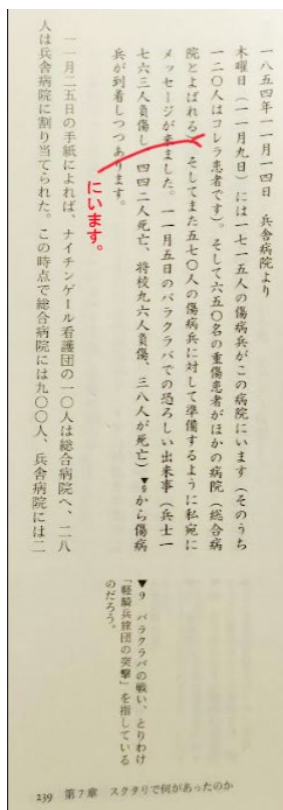


⑤ 227 ページ。古いイラストです。右が修正後(カラー)でしたが、白黒にすると色が薄

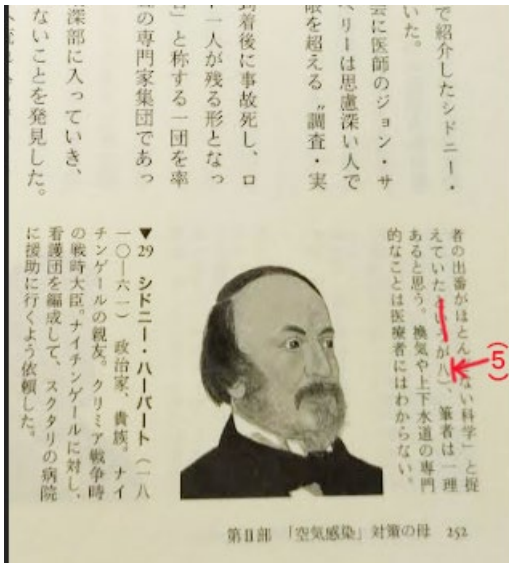
くなるので、古いものをそのまま使われたそうです。



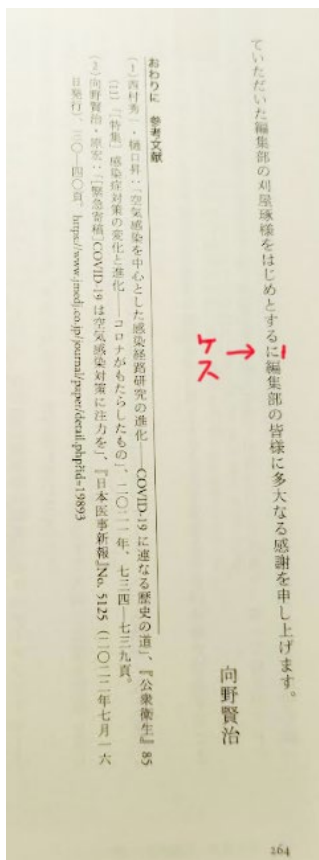
⑥ 239 ページ (総合病院とよばれる)、➡(総合病院とよばれる)にいます。



⑦252ページ 捉えていたというが八)→捉えていたが(5) 文献番号の表示が違  
 ってました



⑧ 264 ページ はじめとするに→はじめとする



⑨ 39 ページ lead の読みはリードではなくレッドである。

彼は徐々に財をなし、ウェシントン<sup>6</sup>の友人ジョン・スベイトマンから、リー地域の土地や財産を引き継いだ。それにはリー・ホール (Lea Hall) とよばれる大邸宅も含まれていた。この頃からナイチンゲール家は、鉛採掘業者から大地主、荘園領主への道を歩み始めた。一七世紀の終わり頃までにトーマスは、リーからクロムフォード一帯を所有するようになった。鉛 (Lead) は、ナイチンゲール家のキーワードである。地名のリー (Lee) は Lead に由来するのだろうか、リーブリッジ (Lea Bridge) … 後述のジョン・スメドレーと紡績工場を建てた場所)、リー・ハースト (Lea Hurst) … フロレンスの父が建てた邸宅。フロレンスはここで育った) などもある (図1-5、1-6)。\*

マッド・ピーター

トーマスの次男ピーターは、鉛採掘業の盛んなワークズワース地域で事業を起し、鉛採掘場主としてさらに財をなしていった。兄ヘンリーとの関係はわからない。墓碑銘に Henry Nightingale of Matlock wool とあるのでマトロックで羊毛業をしていたのかもしれない。<sup>6</sup>ピーターは、ワークズワース、リー地域の荘園所有者となり、リー・ホー

\*但し、leadの読みはリードではなくレッドである。

⑩ 256 ページ 天然痘は、一部接触感染もある。

表 7-2 クリミア戦争時のイギリス軍兵士が罹患した感染症：感染経路別疾患内訳（筆者作成）

感染経路	患者数	割合 (%)
飛沫～空気感染	18,120	17
水系～接触感染	59,412	56
虫媒介感染	28,247	27
合計	105,779	100

発酵性（感染症）の死者のほぼ一〇〇%（一万四五〇七人のうちの一万四五〇三人）となっている。しかしこれは間違っている。これは、ファーとナイチンゲールの偉大なる誤りといえよう。科学が未発達であったための、やむを得ない誤りである。ジョン・スノウと早くから知り合っていたら、この誤りは回避できたかもしれない▼<sup>32</sup>。ただし残念なことに、スノウはナイチンゲールに出会うことなく早逝してしまった。疾患別とは、感染症の種類別ということになる。一つ一つ感染経路別にカテゴリー化してみよう。

赤痢、下痢症、コレラは、空気感染ではなく、水系感染（飲用水による感染）あるいは接触感染に属する疾患である。麻疹は空気感染する疾患、発疹チフスはシラミ、マラリアは蚊が媒介する。天然痘、インフルエンザ、気管支炎、胸膜炎、肺炎は、広く飛沫と空気感染のカテゴリーに入る。<sup>\*</sup> 猩紅熱や丹毒は溶連菌感染症である。リウマチ（とくに急性）も溶連菌感染に入れるとすれば、広い意味で飛沫と空気感染のカテゴリーに入る。溶連菌が空気感染するエビデンスは多い。<sup>5</sup>

▼<sup>32</sup> ジョン・スノウについては第5章を参照のこと。

**\*天然痘は、一部接触感染もある。**